

地域丸ごと健康の維持・増進を図る事業

水内 義明 氏

NPO 法人健康サロン 代表理事



1.活動の背景

日本で残薬が社会問題となる中、2015年8月～9月に保険薬局に依頼して処方箋を持って来た患者を対象に「飲み残した処方薬の調査研究」のアンケート調査を行った。その結果より勤労世代の飲み残す理由は理解出来るものが多いが、高齢期の在宅患者が飲み残す理由には理解出来ないものが多かった。「自己判断で飲む飲まない仕分けをする」、「飲み残す頻度も量も多い」、「飲み残した薬は保管し、その中にはハイリスク薬が高頻度に見つかる」といった特徴がある。

2.活動方法

この高齢期の在宅患者を対象とした服薬環境に係る調査の必要を感じ広島県・市の老人クラブ連合会、地域女性団体連絡協議会に協力を依頼し、2016年から研究助成金により広島県各地で無料の出前講座「おくすりサロン」を開催、アンケート調査を行った。その結果高齢期の在宅患者が飲み残す理由の背景に「病気を薬で治すために必要な基礎的知識が不足している」事が分かった。更に開催団体から、健康・長寿のために食生活や運動、また家族に出来る介護について話が聞きたいとの要望があった。そこで2017年、学外講師を招聘すると共に①健康の維持・増進のための講演活動、②市民が薬局を選んで利用する社会の実現、を目的とするNPO法人を設立し、新たな講師を招聘して「食生活サロン」、「運動と栄養サロン」、「高血圧予防サロン」、「糖尿病予防サロン」を始めた。

3.活動内容

- ①出前講座の案内は健康サロン及び広島県HPの他、開催団体に郵送し、同封のFAX様式等で申し込む。
- ②会場には講師・事務局員2人がPC等講義機器、講義テ

キストを携え車で向かう。

- ③講義時間70分、質疑10分、アンケート調査5分が所要時間、受講者平均年齢76歳。

- ④アンケート結果は日本薬学会、関連学会で発表。

2017年度の出前講座（広島県）

開催団体	開講回数	受講申込者数	派遣講師数	連携団体
74 団体	77 回	5,115 人	6 名	8 団体

4.活動の意義

高齢化社会は独居と認知等障害者社会であり、地域で健康・長寿の知恵を共有し、ご近所の支えあいが重要になる。その試みとして高齢期の生活を取巻く専門家が講師として地域に出向き、地域丸ごと「食生活」「運動習慣」「生活習慣病予防」「賢い薬局利用」について各講師が健康・長寿を目的に連携し計画的な地域健康教育を試みている。病気や要介護になってからの対処を中心とする我国の医療は素晴らしいが、大金を要する。その結果、子や孫に悪影響が出れば、社会を支えてきた高齢者の努力も報われない。ボランティアが篤志財団の支援を得てどんな成果が生まれるかチャレンジしたい。